

## ⑤たんぽぽ共同保育園 1967(S42)～

「一緒に保育園を作りませんか」という呼びかけに、生後8ヶ月の子供を抱え病院勤めができず途方に暮れていた母親、失職した母親など5人が集まった。

同じ悩みを抱えている事に勇気を出して、1965年保育園設置運動を始めた。新日本婦人の会の協力も得て、チラシやアンケートを深沢地区の2,000世帯の家庭に配布した。市長や議会へ子どもを背負っての陳情行動が功を奏して、66年9月に市立深沢保育園が開設することになった。しかし翌67年4月、22名の子ども達が定員を上回り入所できなかった。

そこで元農協の建物を市より借用し、季節保育所の



位置付けで、働きに行く母親、子ども達を保育する母親と役割を分担して、同年11月たんぽぽ共同保育園が誕生した。初代の園長は5人の一人、風間慎子だった。

この運動は、鎌倉地域(ピヨピヨ)、大船地域(大船第

一共同⇒大船ひまわり)へと全市的に広がっていった。

その後入園者が増え、施設難から家を借り3カ所、2カ所体制をとっていたが、92年当時の深沢幼稚園分園に園舎を移し、一つの建物にまとまった。

94年、ぴよぴよ保育園・大船第一共同保育園・たんぽぽ共同保育園の3園共同で、1法人3施設という形で認可に向かったが、園の間に意見の違いができ2002年解消された。しかしこの活動により保護者助成や市の単独補助金を獲得し、一定の成果を上げた。

04年「社会福祉法人鎌倉たんぽぽ会」を設立し、市有



地の提供を受けられるよう行政に働きかけ、05年手広2-18-27に「たんぽぽ共同保育園」が認可され開設した。



12年、市立深沢保育園の跡地に「梶原の森たんぽぽ保育園」(梶原4-2-10)も認可され、この地域の保育環境が充実してきた。